



山東盆地の田園風景（本文中に関連記事があります）

目次／contents

ひと・まち・地域

- 地域から少子高齢化への対応を考える（その7）～高齢化イメージの概観～ / 森脇宏 2
- 津波被害にそなえた取り組みについて / 堀口浩司 4
- 名古屋に2軒の店舗付き集合住宅が竣工しました / 間瀬高歩 6
- 6年間で100名以上の環境リーダーを輩出！ーだいとうシニア環境大学 / 武藤健司 7

きんきょう

- 小学生たちが、地域の営みについて「聞き書き」をしました / 依藤光代・絹原一寛 8
- 新人紹介 / 山崎将也・堂本健史 9

メディア・ウォッチ

- 『イスラーム化する世界』 / 三輪泰司 10
- 『おもろい商店街のなかのメチャオモロイみつや交流亭物語』 / 高田剛司 11

まちかど

- 塀の中から見た風景 / 坂井信行 12



地域から少子高齢化への対応を考える その7～高齢化イメージの概観

／代表取締役社長 森脇宏

ニューズレター No.184 の「その6」までで、少子高齢化のうち、少子化傾向の緩和について、地域の視点から論究してきました。今号からは、高齢化への対応について、幾つかの視点から考察してみましょう。ただし高齢化については、既に様々な分析や考察がされていますので、あまり重複しないような視点から、高齢化のイメージを概観してみます。

なお、ここで用いる将来データは、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」の結果や、ここで示された諸指標（生残率等）から推計したものです。この国立社会保障・人口問題研究所による推計値は、今年6月、多くの自治体が消滅すると予測した日本創世会議が指摘したように、出生率や社会移動の甘さがあるようですが、関西の高齢者イメージを概観するには、出生率は直接関係せず、関西の高齢者の社会増も少ないため、あまり大きな問題はないと思われます。

激増する90歳以上の高齢者

高齢化社会について論じる際に、例えば「75歳以上の後期高齢者数が・・・」というフレーズがよく使われますが、70歳代後半でもまだまだ介護が不要な高齢者の割合は高く、介護問題等を視野に入れて高齢化を論ずる場合は、85歳以上や90歳以上の高齢者の動向を注目する必要があります。

こうした趣旨から、関西（2府4県）の90歳以上の高齢者の動向を眺めると、表1のように現状（2010

年）で約20万人おられ、15年後（2025年）には約52万人と2.5倍に、30年後（2040年）には約93万人と4.6倍になると推計されています。これは、概ね現在の和歌山県の人口に匹敵する数字です。

これを府県別にみると、大阪府での増加が著しく、現状（2010年）の約7万人から、30年後（2040年）には約39万人と5.3倍、実数では約32万人が増えると推計されています。また、こうした傾向は市町村別にみると、より一層顕著に現れ、現状（2010年）に対する30年後（2040年）の増加率が高い市町村の上位20位までを整理すると表2のとおりで、関西で最も増加率が高い枚方市では、現状

表2. 90歳以上の増加率が高い市町

順位	市町村	A. 2010年	B. 2040年	B/A	B-A
1	枚方市	3,128	21,791	6.97	18,663
2	寝屋川市	1,740	10,861	6.24	9,121
3	香芝市	576	3,592	6.24	3,016
4	三田市	889	5,444	6.12	4,555
5	猪名川町	451	2,726	6.04	2,275
6	播磨町	181	1,093	6.04	912
7	大阪狭山市	548	3,295	6.01	2,747
8	和泉市	1,296	7,711	5.95	6,415
9	島本町	222	1,319	5.94	1,097
10	栗東市	346	2,053	5.93	1,707
11	茨木市	2,182	12,889	5.91	10,707
12	精華町	252	1,476	5.86	1,224
13	摂津市	593	3,471	5.85	2,878
14	大東市	865	5,044	5.83	4,179
15	箕面市	1,207	7,014	5.81	5,807
16	吹田市	2,645	15,222	5.76	12,577
17	豊能町	233	1,340	5.75	1,107
18	平群町	198	1,138	5.75	940
19	高槻市	3,051	17,515	5.74	14,464
20	熊取町	364	2,089	5.74	1,725

（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年（2013）年3月推計）」

表1. 90歳以上の府県別動向（推計結果）

	A. 2010年 (千人)	B. 2025年 (千人)	C. 2040年 (千人)	B/A	C/A	B-A (千人)	C-A (千人)
滋賀県	14	33	58	2.29	4.05	19	44
京都府	30	73	130	2.43	4.36	43	100
大阪府	74	202	389	2.73	5.26	128	315
兵庫県	56	142	247	2.51	4.38	85	191
奈良県	15	36	65	2.33	4.22	20	49
和歌山県	14	30	44	2.14	3.15	16	30
関西合計	204	516	934	2.53	4.57	312	730

（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年（2013）年3月推計）」

（2010年）の約3千人から、30年後（2040年）には約22千人と7倍、実数では約19千人が増えると推計されています。2位以下は、寝屋川市（6.2倍）、香芝市（6.2倍）、三田市（6.1倍）、猪名川町（6.0倍）

など、大阪府以外の市町も登場していますが、やはり大阪府内の市町が多く、20市町のうち13市町（65％）を大阪府内の市町が占めており、高度経済成長期に人口が急増した市町が多く並んでいます。

この90歳以上の高齢者の大部分は介護が必要になる方と考えられ、介護は市町村が主体となって取り組むことになっていますが、施設面やマンパワー面で準備していく計画はあるのでしょうか。これらの点については、次号以降でもう少し詳しく考察してみます。

死亡者数が倍増する市町も登場

高齢者が増えると、当然、死亡者数も増えてきます。国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」で示された生残率や純移動率を用いて、関西の市町村別死亡者数（年平均）を推計すると表3に示すとおりで、現状（2010年）で関西全体の死亡者数は年間約18万人ですが、15年後（2025年）には約26万人と1.45倍に、30年後（2040年）には約29万人と1.6倍になると推計されます。

これを市町村別にみると、もう少し様相が異なり、現状（2010年）に対する30年後（2040年）の増加率が2倍を越える市町も、表4のように20市町に上り、最も増加率が高い堺市では、現状（2010年）の約7千人から、30年後（2040年）には約17千人と2.5倍、実数では約10千人が増えると推計されます。これらに対応する墓地や火葬場が確保できるのでしょうか。墓地については、埋葬の風習の変化等も関係するため、単純に死亡者数に需要が比例するとは考えられませんが、火葬場の方は概ね死亡者数に需要が比例すると考えられ、現在の処理能力ではカバー

表3. 年間死亡者数の府県別動向（推計結果）

	A. 2005年 ～2010年 (千人)	B. 2020年 ～2025年 (千人)	C. 2035年 ～2040年 (千人)	B/A	C/A	B-A (千人)	C-A (千人)
滋賀県	11	15	18	1.39	1.67	4	7
京都府	23	33	38	1.41	1.63	10	15
大阪府	72	112	127	1.55	1.75	40	55
兵庫県	49	68	77	1.37	1.55	19	27
奈良県	12	17	19	1.39	1.58	5	7
和歌山県	12	14	14	1.20	1.20	2	2
関西合計	180	259	293	1.44	1.63	79	113

（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年（2013）年3月推計）」を基に推計した。

できない地域が続出するかもしれません。

また、死亡者数の増加は、独居老人という問題と絡むと、空き家の発生へとつながっていきます。この空き家問題は既に各地で議論になっていますが、今後ますます大きな問題になってくるでしょう。こうした死亡者数の増大に伴う問題についても、今後、もう少し詳しく考察してみたいと思います。

※本稿は、日本計画行政学会関西支部の研究部会活動「地域からみた少子高齢化への対応策に関する一考察」の成果の一部を活用しています。

表4. 死亡者数の増加率が高い市町

順位	市町村	A. 2005年 ～2010年	C. 2035年 ～2040年	B/A	B-A
1	堺市	6,787	17,075	2.52	10,288
2	精華町	202	498	2.46	296
3	香芝市	421	951	2.26	531
4	草津市	724	1,633	2.26	909
5	守山市	458	1,004	2.19	545
6	京田辺市	403	881	2.19	478
7	三田市	694	1,517	2.19	823
8	枚方市	2,807	6,116	2.18	3,309
9	箕面市	860	1,843	2.14	983
10	木津川市	464	984	2.12	520
11	栗東市	337	711	2.11	374
12	湖南市	326	687	2.11	361
13	茨木市	1,743	3,670	2.11	1,927
14	岩出市	346	727	2.10	381
15	熊取町	304	636	2.09	332
16	広陵町	219	451	2.06	232
17	生駒市	797	1,638	2.05	840
18	猪名川町	202	415	2.05	212
19	豊能町	186	379	2.04	193
20	八幡市	515	1,040	2.02	525

（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年（2013）年3月推計）」を基に推計した。



津波被害にそなえた取り組みについて

／取締役副社長 堀口浩司

地区防災計画制度と地区防災計画学会

災害対策基本法の改正（平成25年）により、本年4月から地区防災計画制度がスタートしました。東日本大震災では大規模な被害が発生し、被災者を支援すべき行政職員や役所自体が被災し、公共だけの力による被災者支援（公助）の限界が明らかになりました。行政からの速やかな支援が期待できない状況では、被災者自身が自らを守ると共に、隣近所や町内会など地域コミュニティの協力によって、災害を乗り切る必要が教訓となりました。

この地区防災計画制度は、公助の限界と自助・共助の役割の拡大を踏まえて創設されました。地区や企業協議会レベルでの防災訓練や発災後の活動などをそれぞれの地区防災計画として定め、市町村の地域防災計画の中に位置づけできるという趣旨です。

アルパックでは各地で地区計画制度の運用や地区計画そのものの策定に関わってきましたが、地域防災計画と地区防災計画は、都市計画と地区計画との関係で考えています。この地区防災計画策定のためのガイドラインづくりのため（一財）関西情報センターと協力して、各地の活動事例やルールづくりなどを調査してきました。

今年からモデル地区の調査に入ると同時に、行政や研究者、防災士など関係する人達によって、地区防災計画制度の普及啓発や調査研究のために、地区防災計画学会（仮称）が発足しました。いわゆる「学会」としては、一定の活動実績を経て、日本学術会議協力学術研究団体としての指定を目指して活動をはじめています。

日本都市計画学会の3支部の連携事業

『南海トラフ巨大地震』にそなえ、全国各地でさまざまな取組が進められています。紀伊半島、四国南部、九州東部の沿岸部ではリアス式海岸の地形、漁業を中心とした生業、集落の人口減少や過疎化・

高齢化など類似の問題点を抱えており、地震と津波の被害を軽減するべく、各地で行政は高台への移転やインフラの整備、あるいは住民や地域コミュニティレベルでの避難訓練など多様な取組が行われています。

日本都市計画学会の九州支部、関西支部、中国四国支部では3支部が連携した研究交流活動の一環として、上記の3地域における震災への備えとして、地域振興策とまちづくりの視点から、連続したシンポジウムやワークショップを開催しつつあります。このような公開の議論に先立ち、私が参加する研究会では奥尻島、玄海島、三陸地域など復興過程の研究を経て、発災時の被害軽減とその後の復興にそなえて事前に何をすべきかを検討してきたところです。

第一弾として九州（大分）シンポジウムを開催し、これから関西（和歌山）と広島（都市計画学会全国大会）でのワークショップ、四国（高知）でのシンポジウムなど連続開催を予定しています。

5月に開催した大分のシンポジウムでは、町内会などコミュニティレベルでの避難活動や防災活動の実践報告と発災後のまちづくりへの課題について地域の活動家と専門家との議論を行いました。このシンポジウムで指摘されたのは、①避難対策は非常に重要であり、常に取り組むべきものである。過去の災害経験や復興現場からの報告から、②事前の平常時の取組が被災後のまちづくりに役立つ、③平常時



シンポジウムの様子



「津波防災に取り組む町」広川町の看板（和歌山県）の準備は地域コミュニティの力が基本である、といった点でした。

この成果を更に進め、10月には和歌山県で行政職員を入れたワークショップを行い、高台への移転や市街地の再編、地域産業の復興など「生きのびた後の地域再生」に焦点をあてた議論を展開したいと考えています。

都市計画のこと

将来予想される大規模な災害に対し、その被害を最小化するための準備として、避難訓練や防災対策を行うことが喫緊のテーマであり、当面は避難地や避難路の確保、非常時の避難所や仮設住宅用地の調査など、今すぐに着手すべき課題です。更に中長期的には、安全な高台への道路網の整備、低地部の土地利用転換や中心市街地の再編、森林や農地と都市的土地利用の調整など、都市・地域の構造を大きく変更するような要素を持っています。その一方で、水産業を中心とした地域経済の変化、高齢化や人口減少による山間集落の衰退など、地域の生業と土地利用との関係も密接な関係を持っています。

地域を支えるマンパワーが乏しくなり再生のための活力が維持できるかどうか、あるいは行政の財政事情が厳しい中、災害に備えた大規模な土木事業を進めるのは困難、災害後の復興まで考えるのは更に難しいといった諦めムードもあります。しかし、このような困難な状況がありつつも、人的被害や市街地の損壊を低減し、被害から癒やされる期間を最短とするため、事前の準備への取り組みが必要です。



津波避難場所の標識：白杵公園



リアス式で平野部が少ない土地条件では、災害が起こって最初に必要となる仮設住宅や災害公営住宅の建設、安全な高台などへの移転など、将来のまちづくりを展望し、緊急時に必要となる土地の手当を予め準備していくことも必要です。

地域の生活と市街地の将来像について、産業、観光、福祉、教育、自然保全など複数の視点から、身の丈にあったまちづくりをじっくり議論しておくことが重要であり、復興まちづくりを今から進めていく上での条件と考えられます。

災害からの復興を意識しつつ、中長期のビジョンを持って、それを実現するためのアクションを具体的に考えていくことが重要です。地区レベル・コミュニティレベルでそれぞれの将来像、生活像を考えていくことが、地区防災計画の成果を上げ生き延びた後の展望を有意義なものにすると考えられます。

（日本都市計画学会理事、関西支部長／地区防災学会理事）



避難ループ橋：白杵城跡



津波避難場所：白杵城跡



名古屋に2軒の店舗付き集合住宅が竣工しました

名古屋事務所／間瀬高歩

シエルブルー栄（名古屋市中区栄）

平成26年3月、名古屋市中区栄4丁目に店舗付き集合住宅が竣工しました。建物は「CIEL BLUE SAKAE（シエルブルー栄）」と名付けられ、地下1階～地上2階はテナント（最大6区画）、3階～12階は賃貸住宅98戸（うち11階と12階はメゾネットタイプ）の構成です。

シエルブルー栄は、名古屋の都心部「栄」にあり、昼夜を問わず人が行き交い、賑わいのある地域に立地しています。中区栄4丁目周辺は、中区役所、中日ビル、昭和ビルなどの官公庁・オフィスビルが立地していますが、名古屋の目抜き通り「広小路通」から南のエリアに入れば、名古屋の繁華街の一つで「女子大小路」や「栄ウォーク街」と通称されている界隈があります。シエルブルー栄が建設される以前の土地利用は、中国大飯店という中華レストランが営業していましたが、閉店後は平面貸し駐車場として低未利用地の状態が続いていました。この度、事業主の（株）アトリウム・（株）エー・アイ・シーが開発を手掛けられ、再び街の活性化に資するような事業が展開されています。

設計時の近隣説明では、シエルブルー栄の事業が展開されることによって、「街が活気づくので期待している」「シンボルになるような建物をつくって欲しい」などの賛同するご意見を多く頂きました。

ビジネス街と繁華街の接点に建つ店舗付き住宅として、地域の方々に永く親しまれればと思います。



シエルブルー栄



やごと光風観



やごと光風観 鉄骨ユニットの建方状況

やごと光風観（名古屋市中区八事）

同年3月、名古屋市中区八事に店舗付き集合住宅が竣工しました。建物は「やごと光風観」と名付けられ、1階はコンビニ及び住宅共用部、2階～6階は学生専用賃貸住宅34戸の構成です。天白区八事の周辺は、名古屋大学、中京大学、南山大学、名城大学など多くの大学が立地しており、学生たちが行き交い、若い活気が感じられる地域です。建設地の周辺は地下鉄八事駅や大型スーパーが近接する利便性の高い場所であり、八事の丘陵地を南に下れば閑静な住宅地がひろがっています。建物名称の「やごと光風観」は、入居される学生が「やごと」の街で、新しい「光や風」を「観る」ことができるようにとの願いを込めてオーナーが名付けられました。

やごと光風観では、オーナーの建設スケジュールが短工期であることが前提条件でしたので、構造・工法は、1階は鉄骨在来工法、2階～6階は鉄骨ユニット積層工法としました。鉄骨ユニット積層工法は新潟の鉄骨メーカー（株）サトコウのSSUT工法によるものです。SSUT工法により、着工から竣工まで5ヶ月間の短工期による事業化が実現できました。

竣工後、やごと光風観の入居契約は即満室になりました。今後、多くの学生が新しい生活をスタートする住宅として末永く利用されればと思います。

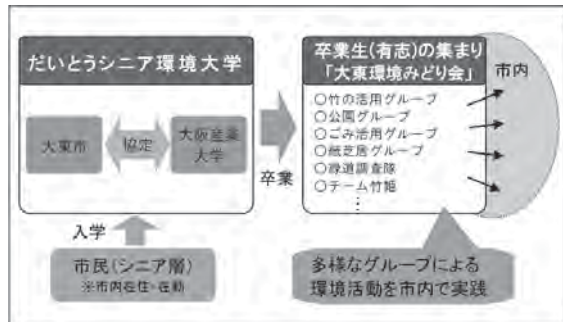
オーナーは異なりますが、同時期に2軒の設計監理を担当させて頂きましたご縁と、完成に向けてご尽力頂きました関係者の皆様に心から感謝致します。



6年間で100名以上の環境リーダーを輩出！ —だいとうシニア環境大学—

地域産業イノベーショングループ／武藤健司

大阪府大東市が大阪産業大学と連携して開催する「だいとうシニア環境大学」。シニア層（50歳以上）の市民を対象に、環境問題への理解を深め、地域で活躍する環境活動のリーダーを育成する年間の講座（全18回）です。平成20年度に開校し現在7年目。開校当初から、事務局として企画運営をサポートしています。



気分は大学生♪楽しく学べるカリキュラム

市長から入学証書を受け取り、1年間の大学生活がスタートします。講座の受講に加えて、卒業要件（単位数）の設定やレポートの提出、大阪産業大学内の食堂や図書館の利用など、大学生気分楽しく学べることが特徴です。

例年10～20名の受講があり、ごみ、水質、里山保全…など、環境に関するさまざまな分野について、大阪産業大学の先生から学びます。フィールドワークにも重点を置いており、講座を重ねるごとに受講生どうしの距離が縮まります。卒業時は「期待以上に楽しく1年が早かった。これからもみんなで活動したい!」と、毎年決起集会のような場となります。

地域デビューの鍵を握る自主学習

カリキュラムの後半に「自主学習」という講座を3回設けています。自主学習では、これまでの講座を踏まえ、ごみ減量や水質測定など、受講生がさらに深めたい分野や卒業後に取り組みたい活動を決め、事務局はそのサポートを行います。同じ思いを

持つ受講生どうしがグループとなって取り組むことで、「おもしろい!」、「試しにやってみよう!」と議論が盛り上がります。

受講生のみなさんは長年培って来られた経験やノウハウをお持ちなので、方向性が決まればすぐに具体化されていき、その活動的な様子には毎年驚かされます。結果として、卒業後に実践する環境活動の多くが、この自主学習から生まれています。

平成26年度のおおさか環境賞（準大賞）受賞！！ 年々拡がる卒業生の活動

卒業生の活躍こそが、この事業の大きな成果となっています。平成21年3月に1期生が卒業し、これまでの卒業生は100名を超えました。1、2期生が中心となって立ち上げた「大東環境みどり会」は、卒業生限定の集まりであり、卒業生の多くが会員として“無理せず、楽しく”環境活動を実践しています。活動は、段ボールを使ったコンポストの普及、竹林整備や竹細工づくり、子ども向けの環境紙芝居など、会員数の増加とともに年々拡大しています。近年では、産官学民の連携による水質浄化実験など、新たな動きも出てきました。

卒業生の活躍はもちろん、大阪産業大学の先生の温かいサポートをはじめ、市職員による日々のフォローなどにより、活動の輪が広がってきました。卒業生による活動は、少しずつ、そして着実に地域に浸透してきています。



卒業生の活動

おおさか環境賞：他の模範となる豊かな環境づくりに向けた活動に取り組み、顕著な功績のあった個人・団体又は事業者を顕彰するもの。大阪府が平成9年に創設。





きんきょう

小学生たちが、地域の営みについて「聞き書き」をしました

都市・地域プランニンググループ／依藤光代・絹原一寛

和歌山市の山東盆地は、市の南東部に位置し、里山にぐるりと周りを囲まれています。そのため市街地とは風景が全く異なっており、田園が広がり、谷間の斜面にはみかん畑のある、独特の景観が見られます。

これまで山東盆地では、まちづくりや風景づくりのために、地元の方々が「山東まちづくり会」を結成し、田園や自然にぴったりのイベントを開催されてきました。例えば、藁でつくった案山子を募集する「案山子コンテスト」や、切り出した竹2万本を並べて火を灯す「竹燈夜」などです。

これらの地域の活動を応援するために、和歌山市が「景観まちづくり地区」の創設に向けて検討を始めており、その第一号の地区指定に向けたワークショップを開催しています。アルパックは、これらの取り組みをお手伝いしています。



農村での暮らしは、周りの自然と共生しながら営まれてきたもので、一見するだけでは分からない意味が隠されています。そこで、まずは地域の営みを掘り起こすため、小学生による「聞き書き」を行いました。8月下旬の夏休みも終わる頃、和歌山市立山東東小学校の「若竹学級」の児童15人に参加してもらい、地元のおじいさんに「語り手」として、地域の昔の暮らしと今の暮らしをお話ししていただきました。

少しだけ内容を紹介しますと、むかし男の子たちはウサギを追いかけて野山を走り回ったこと。雨が降った後の川には大きな魚が流れてきており、それを捕まえたこと。田植えの時期に田んぼにコイを放して成長させ、稲刈りの時期につかまえて売ったこと。年に一回、北池の水を抜いて、大きな網で魚を獲ったこと。

若者がたくさんいたころは、伊太祁曽神社の祭りでは神輿3台がぶつかり合い、勇壮な眺めだったこと。地域のこどもはタケノコを傷つけない上手な掘り出し方を教わって、親を手伝ったこ



と、など。話しを聞いていたこどもたちの中にも、タケノコの掘り方を知っている児童がいて、地域の知恵は受け継がれていることも分かりました。

色々教えてもらい、こどもたちは熱心にメモを取っていました。そして最後は、「聞き書き新聞」として、まとめてくれました。

これまでも山東まちづくり会が中心となって、小学校のこどもたちに田んぼでのどろんこ遊びを体験してもらうなどの取り組みを続けてこられています。今回の「聞き書き」も、こどもの地域学習の一つとして、今後も継続していくことができればいいなという声も出ています。

わたしたちを取り巻く生活環境は大きく変わっており、地域の営みも意識的に受け継いでいかないと、長い年月をかけて蓄積された自然との関わり方や生活の知恵の継承が途絶えてしまいます。営みの意味を共有し、次に伝えるための第一歩として、こどもによる「聞き書き」は役に立つのではないのでしょうか。

農村地域の景観もまた、営みの結果として立ち現れるものであり、地域固有のものであります。営みの意味を語り継ぐ中で、風景の大切さを認識し、地域のみなさんと風景づくりに取り組んでいくことも、大切なことだと思います。

新・人 紹・介



「地元愛を全国に持ちたい」

東京事務所／山崎将也

7月1日より東京事務所に入社しました、山崎将也です。これまで18年間、東京の都市計画コンサルタント会社に勤めていましたが、このたび縁あってアルパックの一員となりました。

まだまちづくりや都市計画など何も意識したことのない中学生の頃、自分の住んでいる街の駅前商店街を見ては「商店街から数ブロック入った広場と商店街の間をモール化（当時そんな言葉知りませんでした）したら

賑わいが広がるのに」とか、周辺の普通の住宅地を歩き回ってそのまちの良いところ、悪いところを漠然と考えていたことが、その後の人生の針路を決める原点となりました。

私は新潟生まれ、新潟育ちで、いまだに新潟への愛着が強く、帰省する度に中学生の頃と同じようにまちの様子を見て、自分なりのまちの絵姿を思い描くことを楽しんでいます。この地元愛を仕事で携わるまちに対しても同じように持って、地域の生活者の目線で考えていくことが何より大切である

と常に意識して今後とも研鑽を積み重ねていきたいと思っています。

初めての転職でまだ少し戸惑う部分もありますが、アルパックへの地元愛？も忘れず頑張っていきますので、どうぞ宜しくお願い致します。



「インセンティブが生み出す持続可能なまちづくりを目指して」

地域再生グループ／堂本健史

入社面接で、これまで見たなかで理想のまちはどこかという質問を受けました。少し考えたうえ、4年赴任したことのある地方都市の名をあげました。

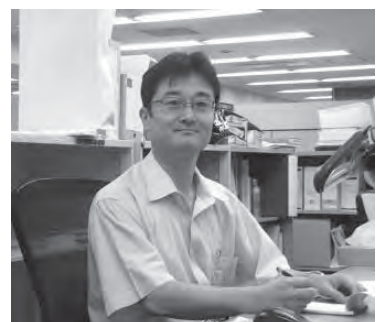
転入してまもなく、地元の祭りに加わったときの光景が忘れられません。祭りも終わりが近づいたころ、町内のお寺の境内に、灯のもと法被姿の町民が車座になって振る舞いの料理を食べる。大人は若い衆も年寄も混じって酒を飲みかわし、小さな子どもたちは庭を駆けまわる。じゃあ歌おうと声がかかり、太鼓をたたいてノーエ節をうたうと、子どもが寄ってきて輪になって踊る。

まちづくりの報告書では「多世代交流」は定番の用語ですが、その姿を私の中に刻んだ体験でした。以来4年間まつりの準備を手伝い、まちを離れても、祭りの当日には毎年駆けつけています。

このまちの祭りでは、大人には、祭りを通じて子どもたちを楽しませるという意識があり、子どもたちを積極的に巻き込んでいます。そして、祭りを経験した子どもは、青年、大人になるにつれ、上の世代と一緒にあって祭りを動かす側に回る。祭りを動かす人は、祭りとそこから派生する世代を越えた交流が楽しいものだから、酬われたと感じ、次もやろうという力が出るでしょう。

人を動かすような使命があり、活動に報酬が伴うと、継続のインセンティブが生まれる。さらに、その活動に新しい人を巻き込む仕掛けがあると自律的に持続する。活気があるまちには、こうした活動が持続する仕組みがあるのではないのでしょうか。

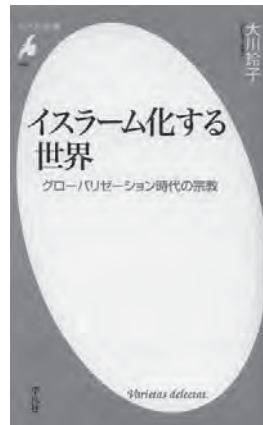
インセンティブが生み出す持続可能なまちづくり、この仕事で取り組んでいきたいテーマです。よろしくお祈りします。



MEDIA WATCH

『イスラーム化する世界』 グローバル化時代の宗教

著者：大川玲子
発行：平凡社



紹介者／名誉会長・顧問 三輪 泰司

はじめに

「イスラーム化する世界」とは、イスラームが世界を席卷して、世界中の人々がイスラーム教徒即ち「ムスリム」になるという話ではありません。イスラームの側が、世界的宗教へ変容して行くプロセスの断面を解いた、イスラーム啓蒙書として読みました。

聖典解釈

イスラーム世界では、日常の生活行動まで、コーラン（クルアーン）によって律せられています。クルアーンとは、預言者ムハンマド（マホメット）が神アッラーから天使ガブリエルを介して「誦め」と伝えられた啓示の断片を集めたものです。「誦め」といわれたように、神の言葉を預かったムハンマドが読誦して伝えたのですが、彼の死後、書物にする必要が出て、現在のクルアーンの形にまとめられたのです。原典はアラビア語です。

なにぶん神さまの言葉で、意味が判り難いところがありました。そこで、ムハンマドが生前、言ったことを行ったことを伝える伝承「ハディース」が頼りにされました。ムハンマドは、聖徳太子と同時代、6世紀後半の人です。633年に亡くなって、すでに意味が判らないところがあったように、現代では、理解が難しくなるのも当然です。そこで「クルアーン解釈」が課題になります。

4人の近代クルアーン解釈

クルアーン解釈学はイスラーム社会ではとても大事な問題で、古来多くの学者が活躍しています。

著者は現在明治学院大学国際学部准教授で40歳代の少壮研究者です。東京大学イスラーム学科から、大学院を経てカイロ留学、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）で修士号を得ています。著者が研究対象とした4人のクルアーン学者の経歴と主題（括弧内）は、まさに現代世界を反映しています。

- 1) アミナ・ワドゥード：アフリカ系アメリカ人女性。1972年入信・シカゴ大学でアラブ・イスラーム学学位取得。（対等な男女関係を目指して）
 - 2) フェリド・イサク：1959年ケープタウンのインド系ムスリムコミュニティ生まれで、南アフリカ共和国籍。反アパルトヘイト闘争参加。（他宗教徒との親和的連帯）
 - 3) ビラール・フィリップス：1947年ジャマイカのキリスト教徒家庭生まれカナダ育ち。ブラックパンサー・ヒンドゥー・仏教にも関る。（伝統的クルアーン解釈に立つ現実的解釈）
 - 4) フェトフッラ・ギュレン：1941年、東トルコの導師（イマーム）の家庭生まれ。世俗的近代国家であるトルコ共和国では、イスラーム教育は軍部によって弾圧され投獄。98年アメリカ移住。（イスラーム・西欧の相互理解促進、教育向上、喜捨ザカートによる弱者援助）
- ざっと経歴と主題だけ記しました。詳しくは、本書をお読み下さい。

世界は確実に変わっている

イスラームでは聖典解釈という方法で、変えてはならない不易の教えを守りつつ、偏狭な女性観・人種観等と闘い、現代に生きる宗教へ、ダイナミックな変容の努力を続けています。まだまだ、世界には無知と貧困がなくなり、物欲と感情が危機を呼ぶ状況があります。しかし、人類社会の潮流は、確実に国際理解を通じて、人間の尊厳と平和共存へ向かっています。

まずは、日本人から最も遠いと思っているイスラーム世界を知ることをお勧めします。なにしろ、世界でムスリムは13億人もおり、アラブ・マナーだけでも数百兆ドルもあるのです。

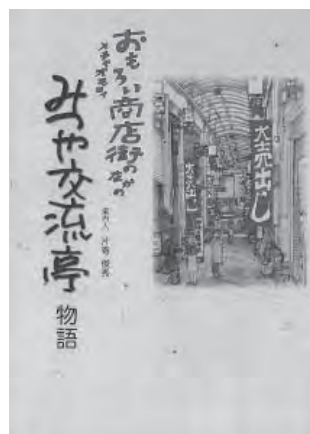
因みに、元アルパック・インターナショナルは、1990年6月ドバイで設立されました。少し早すぎたかもしれません。

MEDIA WATCH

『おもしろい商店街のなかのメチャオモロイみつや交流亭物語』

編著者：片寄俊秀

発行：NPO 法人みつや交流亭



本書の舞台である「三津屋商店街」は、阪急神戸線「神崎川駅」を最寄り駅とし、全長 500 m 以上のアーケードがある商店街です。

神崎川駅は普通電車しか止まらないので、関西に在住している人でも、あまり知らないかもしれません。梅田駅（大阪駅）から 3 駅目という交通至便な立地条件にありながらも、下町の雰囲気が残る住宅街の中に、その商店街はあります。

本書は、空き店舗を活用した交流スペース「みつや交流亭」を 2007 年に開設するまでのドラマと、その後に交流亭で繰り広げられる人間模様を描いたものです。

編著者は、1997 年から兵庫県三田市の商店街で、関西学院大学ゼミの「まちづくり道場・ほんまちラボ」を開設された片寄先生。ほんまちラボは、大学のゼミが商店街をフィールドの場とした、商・大連携の画期的先進事例でした。そのような経験も活かし、片寄先生もキーパーソンの一人として関わっておられます。

近年、空き店舗を活用した交流施設の開設は珍しくなくなりましたが、この「みつや交流亭」の開設にあたって特徴的な点は、タウン誌「ザ・淀川」の創始者であり、初代編集長であった一人の女性の発想と、大阪市職員労働組合が「まちの現場で、市民と一緒にまちづくりの活動をしたい」という思いが合致して動き出したところにあります。そして、労働組合と商店街のコラボという、前代未聞の取り組みによって「みつや交流亭」がオープンし、その後は多様な人を巻き込んで、イベントや全国の商店街との連携などが展開されてきています。



紹介者／地域産業イノベーショングループ
高田 剛司

さて、本書は全 5 話構成となっており、第 1 話のタイトルは、「みつや交流亭の昼間：おばちゃん、水!」。みつや交流亭の日常の様子が

描かれたブログからの抜粋になっており、店に常駐する「おばちゃん」たちと、交流亭を利用する子どもたちとのやりとりが微笑ましく感じられます。この章を読むだけで、地域の子供たちにとって「みつや交流亭」が、大切な放課後の居場所となっていることがわかり、商店街の地域における役割を再認識させられます。

その他の章も、とても読みやすく、「みつや交流亭」を拠点に多くの人に関わってきたことがわかります。全国各地で商店街の活性化に取り組んでいる方、拠点づくりで悩んでいる方、人のつながりづくりで奮闘されている方には、この本の内容がヒントになることでしょう。ぜひ、ご一読されることをお勧めします。

なお、この本は、書店では手に入れることができませんので、ホームページ <http://mituyakouryutei.jimdo.com> から購入するか、次のメールアドレスまで連絡してください。
mituyakouryutei@yahoo.co.jp

(定価 1,000 円 + 税、送料込みで 1,200 円)



商店街の夏祭りでの「みつや交流亭」



塀の中から見た風景

都市・地域プランニンググループ／坂井 信行



真夏の太陽がこれでもかというぐらいに照りつけ気温はおそらく40度に近いであろう、日本は亜熱帯だったかと錯覚するほどの灼熱の中、私は府中刑務所を訪れました。塀の中にいる知人の面会に行ったのではなく、出所する知人を出迎えにいったのでもなく、もちろん私自身が収監されるためでもありません。府中刑務所といえば私にとっては三億円事件です。今や事件のことを知っている人すら少数かもしれませんが、1968年12月10日の朝に起きた現金強奪事件のことです。このミステリアスな事件の現場は第1現場から第4現場まであり、府中刑務所北側の塀の前は事件発生のまさにその場所、第1現場と呼ばれている場所です。その場所を見たかったのです。

塀は当時のものから新しく作り

替えられ、高さも少し低くなっているようです。第1現場は監視塔があった場所ですが、現在は撤去され代わりに監視カメラが設置されています。今となっては事件を思わせる痕跡はどこにもありません。現場近くの歩道橋は当時の写真にも写っているのも、唯一、その当時からあるものかもしれません。そんな感慨にひたりながら塀に沿って刑務所のまわりを一周すると意外なものを見つけました。

「都市景観賞」と表示されたプレートが塀に埋め込まれています。この賞は府中市の景観条



かつての塀はベンチになっている

例に基づいて与えられる賞です。調べてみると、事件当時の塀は撤去され、その内側に現在の塀が設置されたようです。歩道に設置されているベンチは古い塀の一部を利用したものだそうです。植栽なども整備されて全体的に明るい感じになっていますが、それにしても刑務所の塀が都市景観賞ですって。

おそらく賞の選考委員の方は審査の過程で事件のことが意識に上ったに違いありません。この場所に刻み込まれた事件の記憶がいわば地霊となり、それを知る人が見る景観にある種の「深み」を与えている、そのことが結果として受賞の一因になっているのではないのか。つらつらとそんなことを塀の前で考えていました。そして後日、受賞の経緯などを調べていた時にはたと気づきました。元々あった塀は現在は歩道のベンチになっている、つまり私が立っていた場所は刑務所の敷地内、本来「塀の中」だったのです。あの日、私が目にしていたのは（事件当時の）塀の中から見た風景でした。



第1現場から犯人の逃走方向を見る

arpak アルパック(株)地域計画建築研究所

Architects Regional Planners & Associates · Kyoto
<http://www.arpak.co.jp> E-mail info@arpak.co.jp

本 社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入立売西町 82
大阪事務所 〒540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F
名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 6F
東京事務所 〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-5-11 スクエア九段ビル 1F
九州事務所 (株) よかネット 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764
TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478
TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760
TEL(03)3288-0240 FAX(03)3288-0221
TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128

